

山梨県南アルプス市

平成21年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2011.3

南アルプス市教育委員会

例　　言

1. 本書は山梨県南アルプス市において平成21年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。
4. 本書の執筆は第Ⅰ章および第Ⅱ章1、4は斎藤、第Ⅱ章2は田中、第Ⅱ章3、5は保阪が担当し、編集は斎藤、田中、保阪が行った。
5. 整理作業には、飯室めぐみ、加藤由利子、小林素子、桜井理恵、高畠美和、穂坂美佐子、山路宏美が参加した。
6. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。
7. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。（敬称略・五十音順）

帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

凡　　例

1. 遺構図の縮尺はそれぞれ図に明記した。遺物実測図の縮尺は以下の通りである。

土器・・・・1/2、1/3

石器・・・・1/3、1/6

2. トレンチ配置図および遺構図中で使用したスクリーントーンはそれぞれ図版中に凡例を示したが、原則は以下の通りである。

平面図



試掘坑



遺構



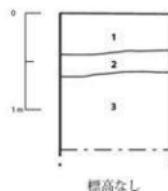
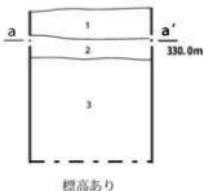
カクラン

断面図



地山

3. 遺構の断面図、基本層序図における「330.0m」等の数値は標高を表す。また試掘調査時レベルを使用せず、地表から簡易的に測量した断面図には縦のスケールのみ表記した。



目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 平成 21 年度試掘調査概要	1
1. 南アルプス市概要	1
2. 調査概要	1
3. 今後の課題と展望	3
第Ⅱ章 平成 21 年度遺跡試掘調査概要	5
1. 百々・上八田遺跡	5
2. 野牛島・石橋遺跡	19
3. 横道 D 遺跡	23
4. 吉田中畑 C 遺跡	27
5. 曽根遺跡	30

第Ⅰ章 平成21年度試掘調査概要

1. 南アルプス市概要

平成15年4月1日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の4町2村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06km²、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳(3,193m)をはじめ、間ノ岳(3,189m)、仙ヶ岳(3,033m)、鳳凰三山など3,000m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勅使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2. 調査概要

平成21年度の試掘調査は総数30件を数える(第1・2表)。昨年度の29件と比べると微増しているが、平成17、18年度と比較すれば少ない。これは蓄積したデータを活用し、より効率的な試掘調査を選択した結果であるが、平成21年度の宅地造成や工場建設などの開発行為自体が過去最低の57件にとどまることにも起因している(第3表、グラフ1)。

調査原因を公共事業、民間事業別で見ると、公共事業に対する試掘の割合は、平成15～17年度までは約11～15%であったが、平成18年度を境に増加に転じ、平成20、21年度には30～34%まで増加した。これは景気低迷による民間開発事業の減少に対して相対的に公共事業の比率が増加したこと

調査原因	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	合計	
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	5	29
	学校	2	0	1	2	1	1	4	11
	公共施設	2	1	4	0	2	3	0	12
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	0	2
	小計	7	4	8	9	7	10	9	54
	公共事業の割合(%)	14.9	11.8	14.8	23.7	29.2	34.5	30.0	21.1
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	5	32
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	0	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	5	32
	工場	0	2	4	3	1	2	1	13
	店舗	8	3	3	1	1	0	3	19
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	5	68
	倉庫	1	2	1	0	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	1	11
	その他	1	3	3	2	0	4	1	14
小計		40	30	46	29	17	19	21	202
合計		47	34	54	38	24	29	30	256

第1表 平成15～21年度試掘調査原因一覧

第2表 平成21年度試掘調査一覧

No.	地名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	トレンチ数	道 横	遺物	調査期間	調査団
1	西小学校遺跡	西田 01-1	237.32	1.78	1	なし	なし	2009年4月9日	個人住宅
2	加賀美条里遺跡	加賀美 2954-1	1,050	0.96	1	なし	なし	2009年1月21日	集合住宅
3	八幡字遺跡	御中島 436	546.06	2.1	1	なし	土壌鉢、瓦片等	2009年1月25日	個人住宅
4	堀ノ上町神遺跡	堀ノ上町 17-1	18.07	18.07	1	貴重遺物	土壌鉢	2009年6月18日	私立小学校
5	百々・上八田遺跡	上八田 1521-1	203.85	15	1	なし	なし	2009年6月26日	標準試掘(標準基準地図)
6	西面塙 3024	西面塙 3024	986.8	21.6	2	なし	なし	2009年8月17～19日	小学2年生組
7	寺原 2018-1～2019-1	寺原 2018-1～2019-1	1,014.32	4.65	1	貴重遺物	土壌鉢	2009年8月26日	集合住宅
8	百々・上八田遺跡	上八田 1073-2地	40,000	580	14	瓦片等、石瓦	土壌鉢	2009年9月15～24日	農道1号・面積算定
9	百々・上八田遺跡	上八田 622-1	400	5.5	2	なし	なし	2009年11月24日	農道1号・面積算定
10	新御動植物・環境監視	新野 221-1	1,296	8	1	なし	なし	2009年8月24日	農道1号・面積算定
11	西野 2396	西野 2396	780	3.7	1	なし	なし	2009年10月13日	小学3年生組
12	堀原・天神遺跡	堀原 425	430	16.48	3	なし	なし	2009年10月21、22日	中学3年生組
13	新御動植物・環境監視	西ヶ 9990-1	925	11.27	2	なし	なし	2009年10月29日	中学校3年生組
14	西野 2196	西野 2196	1,048.06	9	2	なし	なし	2009年10月30日	集合住宅
15	下今瀬1580-5	下今瀬1580-5	531	4.5	1	なし	なし	2009年10月30日	集合住宅
16	上室町口遺跡	上室町 3240-1	840	12	1	なし	なし	2009年11月9日	集合住宅
17	百々・上八田遺跡	上八田 33-1地	5025.95	361.345	17	瓦片等、瓦状鉢類、土瓦	土壌鉢	2009年11月24～12月18日	工場地盤
18	野牛島・石堀遺跡	野牛島 2006-1地	725	41	4	貴重遺物	绳文土器、土壌鉢	2009年11月26日、12月1、24日	農道4号線
19	加賀美条里遺跡	加賀美 3231-1地	1,284	14.63	3	なし	なし	2009年11月30日	宅地造成(分譲住宅)
20	橋道口遺跡	下市之瀬27-1	4,080	16.79	2	貴重遺物	绳文土器、石器	2010年1月6～14日	市道横町4号線
21	萬代(埋出付)遺跡	戸田 30-1地	15,469	75.33	7	なし	なし	2010年1月18、19日	沼跡
22	蓮岳木道上第2・第3遺跡	十日市場 1181-1地	2,546	51.73	5	なし	土壌鉢、土器	2010年2月1、4日	沼跡
23	道河 2456-1地	道河 2456-1地	7,700	40	6	なし	なし	2010年2月15、16日	ウラインガルテン
24	加賀美条里遺跡	西田 326-1	469.9	5.4	1	なし	なし	2010年2月24日	個人住宅
25	利前東A遺跡	西田 064-1	533.54	5	1	なし	なし	2010年3月3日	個人住宅
26	吉田町本B-1地	吉田町本B-1地	2,247	16.2	2	なし	なし	2010年3月11日	宅地造成(分譲住宅)
27	吉田町B-1地	吉田町B-1地	998.29	19.26	2	貴重遺物、土瓦	土壌鉢	2010年3月17日	宅地造成(分譲住宅)
28	西野 2007 地	西野 2007 地	4,640	24.71	3	なし	なし	2010年3月17日	宅地造成(分譲住宅)
29	加賀美条里遺跡	西田 366	1,380.29	16	1	なし	なし	2010年3月21日	宅地造成(分譲住宅)
30	誓根遺跡	上室町 777-2	798	27.5	1	瓦片等、聯合柱構物跡 貴重遺物、土瓦	確定土器、土壌鉢、石器 土壌鉢、土瓦	2010年3月26、27、29～31日	市道下市之瀬上室町 地盤

とにもよるが、災害復旧や緊急防災事業などの公共事業による緊急経済対策が図られた結果もその一因であろう。

調査原因を事業別にみると、例年通り集合住宅および宅地造成・分譲住宅の件数が多く、全調査原因に占める割合が高い。県全体の人口減少が続く中で、南アルプス市は人口が平成21年3月の72,925人に比べ平成22年3月現在で73,112人とわずかながら増加している。このように、合併後年々微増する人口動態が集合住宅、宅地造成の開発件数に反映していると推測され、今後も同様の傾向が続くと予想される。

地区別に見てみると、芦安0件、八田3件、白根9件、若草7件、柳形8件、甲西3件で、面積が広

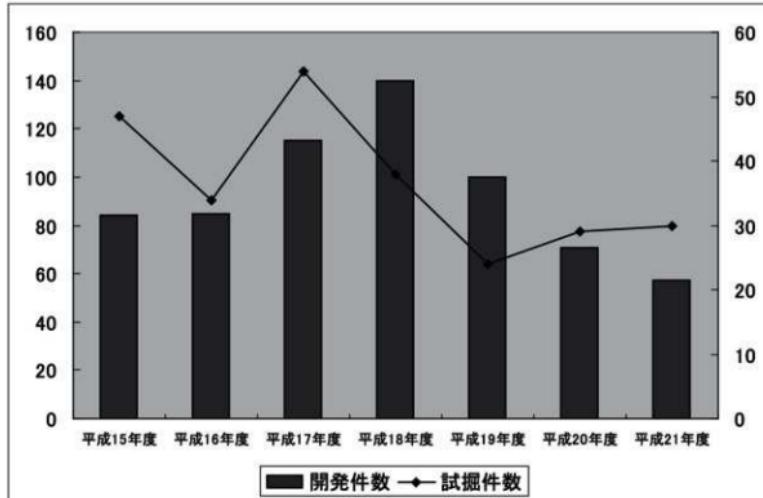
い白根地区、遺跡が多い若草、櫛形地区での試掘件数が多い。

3. 今後の課題と展望

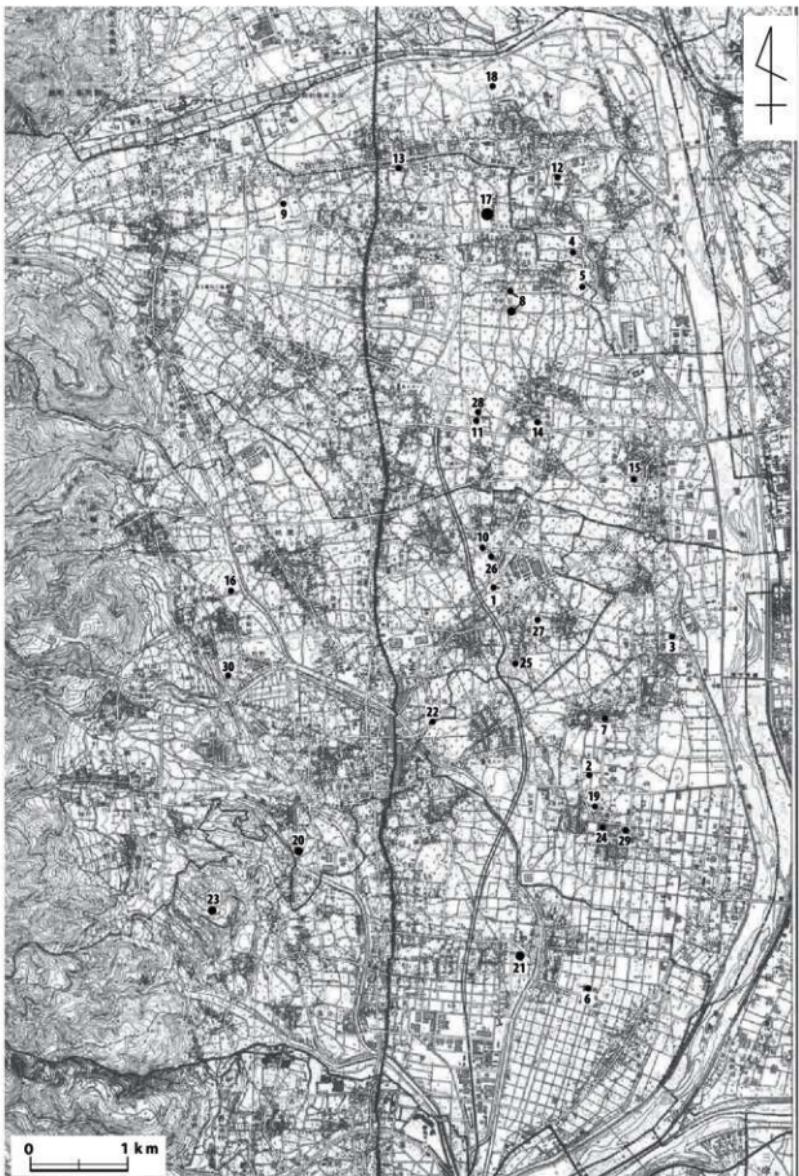
平成21年度（2009）は2007年の世界金融危機による実体経済への影響が続いており、また少子高齢化に伴う内需不振により、昨年同様景気が低迷した。市内開発件数は57件で、合併後の最小件数であり、日本経済の状況を色濃く反映している。その一方で、景気刺激策として公共事業が前倒しで実施された年度でもあり、試掘調査件数自体は昨年とほぼ同数であった。本報告書を作成している平成22年12月段階では、ゆるやかな景気回復とともに民間の開発件数が増加する傾向にある。こうした今後増加が見込まれるさまざまな規模の開発に対し、埋蔵文化財を適切に保護し、開発事業との円滑な調整を図るために調査体制の整備は必須である。それとともに試掘調査結果のデータを蓄積し、精度の高い周知の埋蔵文化財包蔵地の把握に努め、開発計画の初期段階で適切な保護協議を行うことが、埋蔵文化財を保護する基本であり、最も有効な方法であろう。

年度	開発件数	試掘件数
平成15年度	84	47
平成16年度	85	34
平成17年度	115	54
平成18年度	140	38
平成19年度	100	24
平成20年度	71	29
平成21年度	57	30
合計	652	256

第3表 年度別開発行為件数および試掘件数



グラフ1 年度別開発行為件数および試掘件数



第1図 試掘調査地点位置図 (1/50,000)

第Ⅱ章 平成 21 年度遺跡試掘調査概要

1. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 53 他

調査原因 工場誘致

調査期間 平成 21 年 2 月 25、26 日、3 月 2、11 日

平成 21 年 11 月 24 日～12 月 18 日

対象／調査面積 58,053.95 m² / 640.145 m²

調査概要

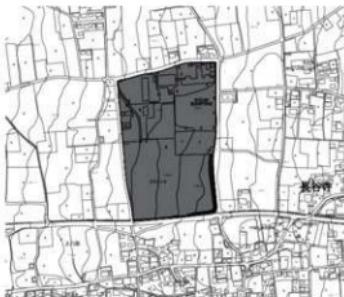
調査地点は御勅使川扇状地の扇尖部に位置する。西側 300 m には中部横断自動車道の建設に伴い山梨県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた百々遺跡が立地している。百々遺跡では奈良・平安時代の

堅穴住居址が 250 軒以上検出されており、その他土坑や溝など中世まで続く集落跡が発見されている。東側 200 m には真言宗智山派の古寺、八田山長谷寺が立地する。寺記によれば長谷寺は天平年間の開創とされ、平安時代中頃と推測されている一木造りの十一面観音立像を本尊としている。近世においては常襲早魃地帯であった原七郷（上八田・西野・在家塚・上今井・吉田・小笠原・桃園）の守り觀音とされ、雨乞いの祈願所でもあった。

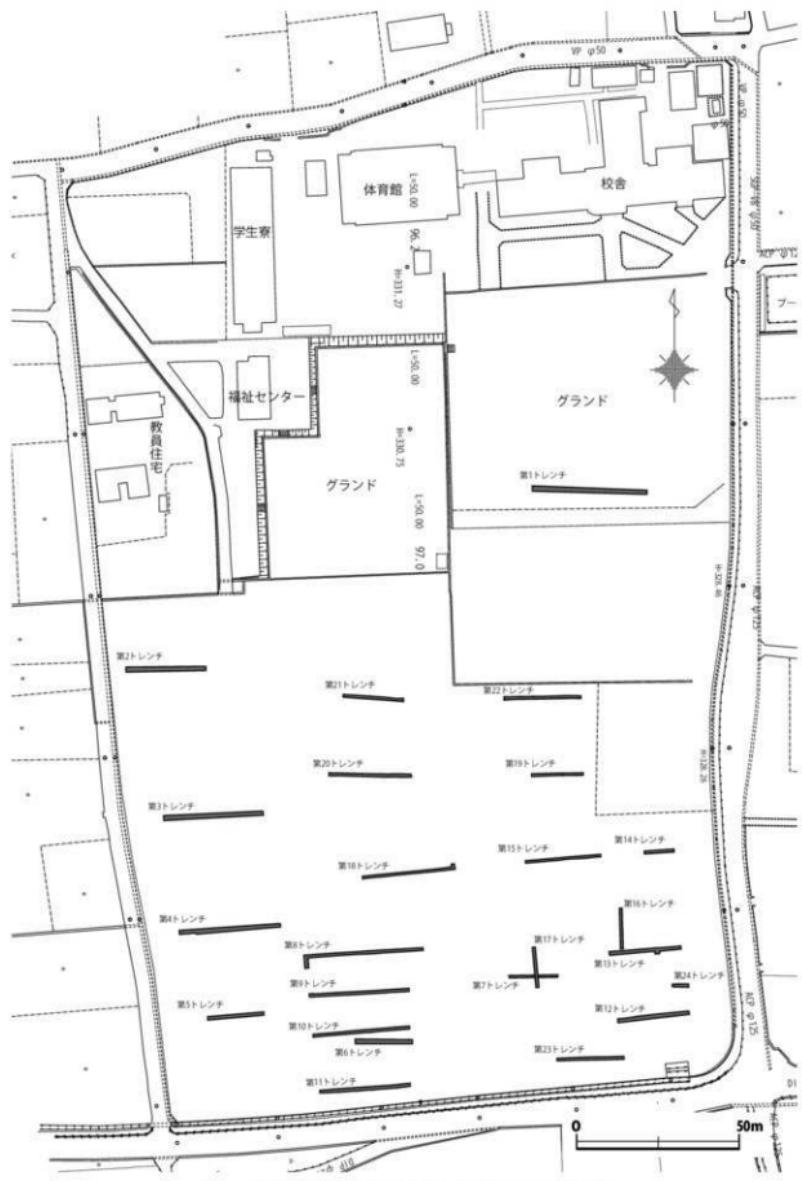
本計画は帝京山梨看護専門学校校舎の甲府駅北口移転に伴い、その跡地に平成 20 年度に計画された工場誘致に伴う遺跡の試掘調査であり、対象面積は約 58,000 m² に及ぶ。そのため試掘調査も複数年度に分けて実施した。平成 20 年度は第 1 ～ 7 トレンチを設定し、平成 21 年度は第 8 ～ 24 トレンチを設定して試掘調査を行った。

調査の結果、第 4、5、19、24 トレンチを除く全てのトレンチから遺構が検出され、遺跡が広範囲に広がることが明らかとなった。堅穴住居址と推測される遺構は第 7、10、11、18、23 トレンチで検出されており、調査区南側に集中している。一方北側は全体的に遺構の密度が低い。これらの結果から集落の中心は調査区南側にあると推測され、北側は集落の外縁であったことがうかがえる。また第 20、21、22 トレンチでは 2 層の遺構確認面を発見した。1 層目は地表下約 30 ～ 75cm で明褐色土を地山とし、2 層目は地表下約 70 ～ 110cm で上層と同様に明褐色土を地山としている。

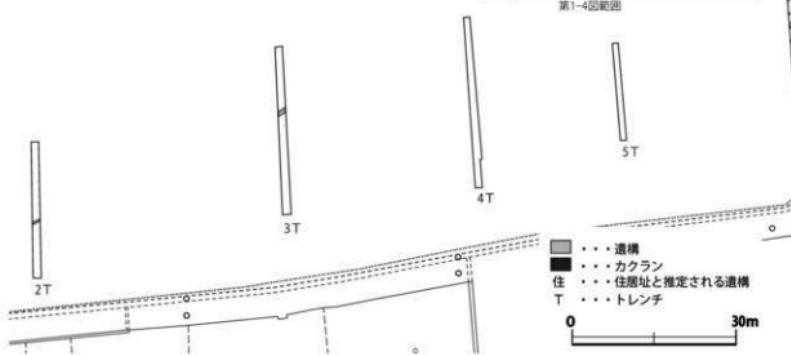
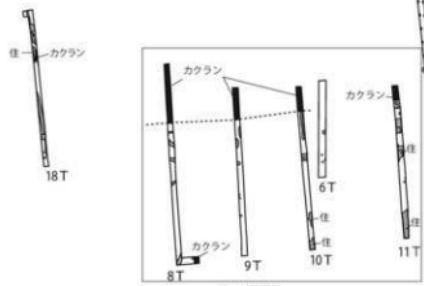
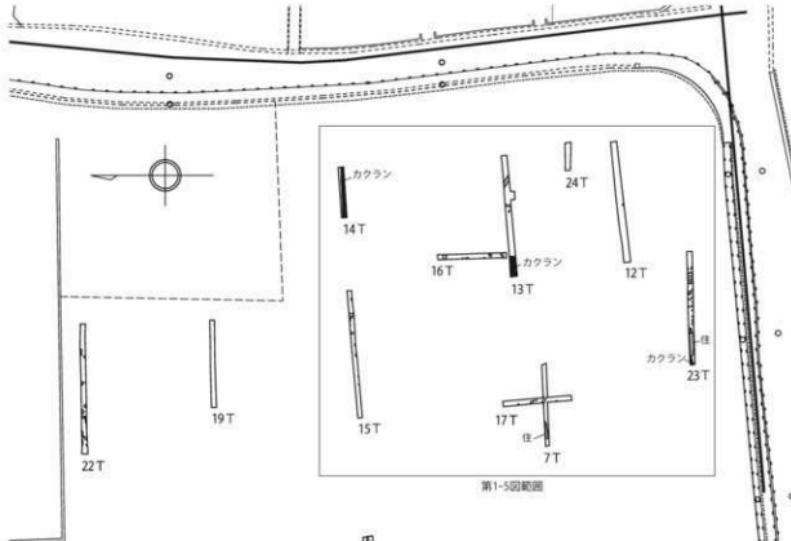
工場誘致計画は本報告書を作成している平成 22 年度現在、まだ計画段階であり、昨年度に引き続き平成 22 年度でも試掘調査を行った。その調査結果については、平成 24 年刊行予定の平成 22 年度埋蔵文化財試掘調査報告書に掲載する予定である。



第 1-1 図 調査位置図 (1/10,000)

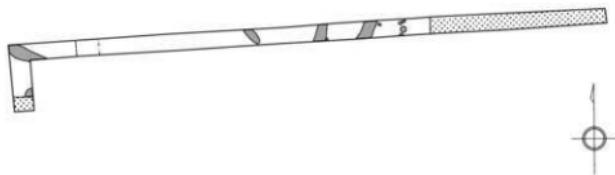


第1・2図 百々・上八田遺跡トレンチ配置図 (1/1,500)



第1・3図 百々・上八田遺跡遺構図 (1/900)

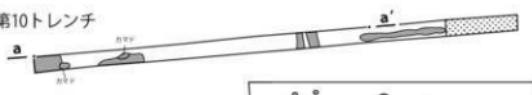
第8トレンチ



第9トレンチ

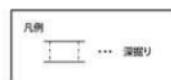


第10トレンチ



第6トレンチ

第11トレンチ



0 10m

第1・4図 百々・上八田遺跡トレンチ・遺構配置図 (1/300)

第15トレンチ



第14トレンチ



第17トレンチ



第7トレンチ

第16トレンチ



第13トレンチ



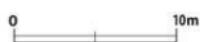
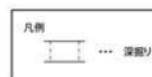
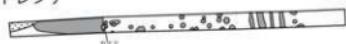
第24トレンチ



第12トレンチ

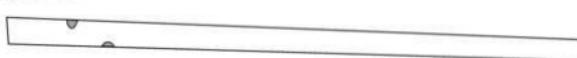


第23トレンチ

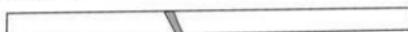


第1~5図 百々・上八田遺跡トレンチ・遺構配置図 (1/300)

第1トレンチ



第2トレンチ



第3トレンチ



第18トレンチ



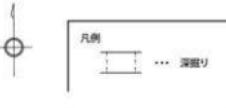
第20トレンチ



第21トレンチ

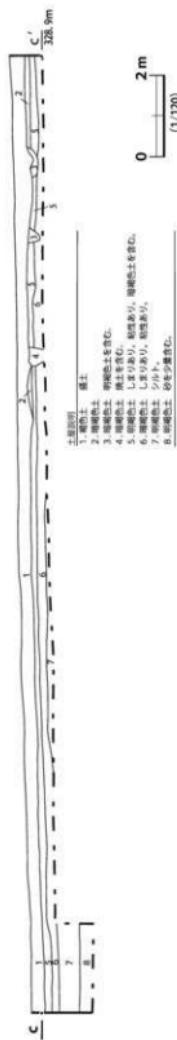
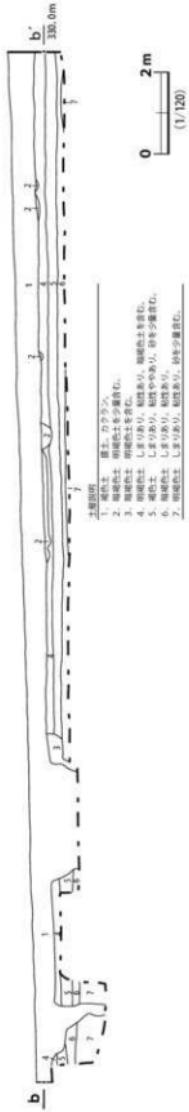
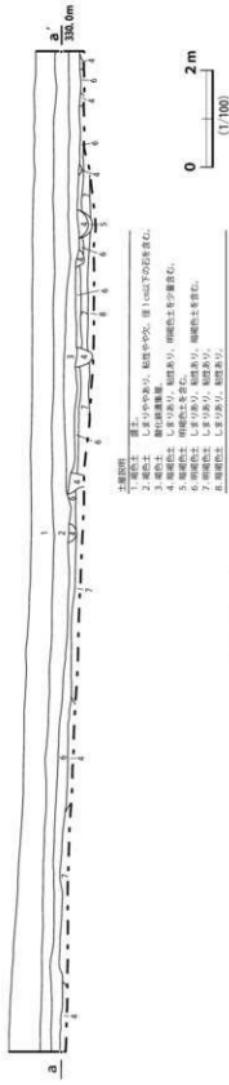


第22トレンチ



0 10m

第1~6図 百々・上八田遺跡トレンチ・遺構図 (1/300)



第1 - 7図 第10・20・22 レンチ断面図 (1/100・1/120)



第8 レンチ遺構検出状況



第8 レンチ遺構検出状況（東から）



第9 レンチ遺構検出状況（北東から）



第9 レンチ調査風景



第10 レンチ全景（西から）



第10 レンチ遺構検出状況



第 10 トレンチ遺構検出状況



第 10 トレンチ調査風景



第 11 トレンチ全景（西から）



第 11 トレンチ遺構検出状況（東から）



第 12 トレンチ全景（北東から）



第 12 トレンチ遺構検出状況



第13 トレンチ全景（東から）



第13 トレンチ遺構検出状況



第14 トレンチ断面



第14 トレンチ断面



第15 トレンチ遠景（東から）



第15 トレンチ断面



第15 トレンチ遺構検出状況



第15 トレンチ調査風景



第16 トレンチ遺構検出状況



第16 トレンチ遺構検出状況



第17 トレンチ全景（北から）



第17 トレンチ遺構検出状況（北から）



第 17 トレンチ遺構検出状況



第 17 トレンチ遺構検出状況



第 18 トレンチ全景（西から）



第 18 トレンチ遺構検出状況（西から）



第 18 トレンチ遺構検出状況（東から）



第 18 トレンチ遺構検出状況（東から）



第 18 トレンチ遺構検出状況



第 18 トレンチ調査風景



第 20 トレンチ全景（東から）



第 20 トレンチ遺構検出状況（東から）



第 21 トレンチ全景（東から）



第 21 トレンチ遺構検出状況



第 22 トレンチ全景（西から）



第 22 トレンチ遺構検出状況



第 23 トレンチ調査風景（東から）



第 23 トレンチ遺構検出状況（西から）



第 23 トレンチ遺構検出状況



第 23 トレンチ遺構検出状況

2. 野牛島・石橋遺跡

調査地 野牛島 2696-1 他

調査原因 農道 47 号線

調査期間 平成 21 年 11 月 26 日、12 月 1、24 日

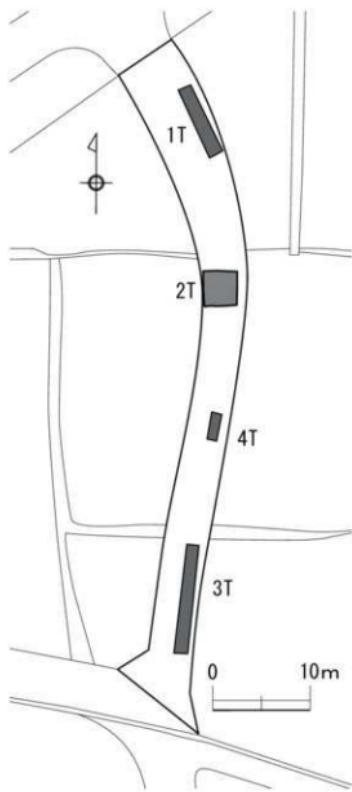
対象／調査面積 725 m² / 43 m²

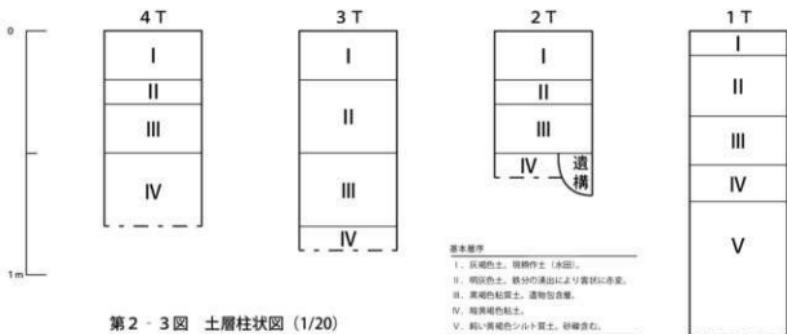
調査概要

遺跡は、御勅使川扇状地の北辺を流れる現在の御勅使川の右岸、扇状地上に位置する。近接して山梨県埋蔵文化財センターにおいて「石橋北屋敷遺跡（山梨県教育委員会 2000）」の発掘調査が行われ、道路跡や墓坑など中世の遺構を主体として、縄文時代晚期～近世にわたる遺物が検出されている。

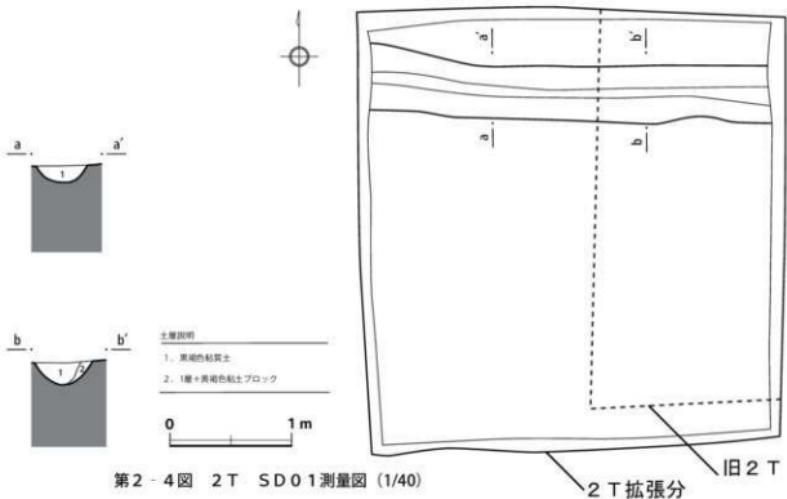
今回の調査は、南アルプス市が計画した、道路（農道 47 号線）建設に先立って実施したものである。調査は、11 月 26 日、12 月 1 日の両日に行い、設定した 4 本のトレンチ各々において、縄文時代晚期～中世の遺物を包含する土層を検出し、第 2 トレンチ（2T）から、溝状遺構のプラン 1 本を検出した。この結果をもって今後の方針について協議した結果、遺物の分布密度がごく薄いこと、検出された遺構が、時期を必ずしも明確にできない溝状遺構 1 本であることに鑑み、この溝状遺構の検出された 2T を拡張し、精査して周辺の状況を確認し、さらに検討することとし、12 月 24 日に再度試掘調査を行った。結果、周辺に遺構の検出ではなく、確認された溝状遺構の状況を記録して、確認調査を終了した。

2T において検出された溝状遺構（SDO1）は、断面 U 字状を呈し、覆土は、基本層第Ⅲ層を出自とする黒褐色粘質土に占められる。主軸は、ほぼ東西方向を成し、確認された長さは 3.25 m、確認面における幅は 0.43 ~ 0.52 m、確認面からの深さは、最大 0.17 m を測る。今回検出された遺物は、いずれも縄文時代晚期から弥生時代中期の所産と考えられる。このうち 7 点を図示した。1 および 4 が今回検出された SDO1 覆土からの検出であるほかは、トレンチ内の遺物包含層からの出土である。近接する石橋北屋敷遺跡の調査でも、該期の遺物が検出されているが、ここでも明確な遺構の検出には至っていない。

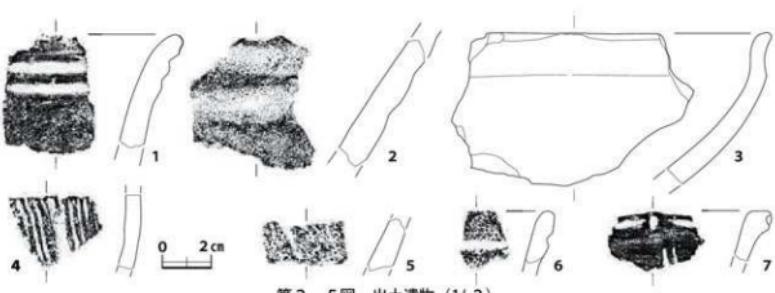




第2・3図 土層柱状図 (1/20)



第2・4図 2T SD 01測量図 (1/40)



第2・5図 出土遺物 (1/2)



各トレンチ土層検出状況（右から1T・2T・3T・4T）



1T 遺物検出状況



2T 遺構確認状況（南東から）



3T 土層検出状況（南東から）



4T 土層検出状況（南東から）



2T S D O 1 棟出状況（東から）



出土遺物

3. 横道 D 遺跡

調査地 下市之瀬 27-1

調査原因 市道櫛形 4 号線

調査期間 平成 22 年 1 月 6 ~ 14 日

対象／調査面積 4,080 m² / 16.78 m²

調査概要

調査区は市之瀬台地縁辺部、市之瀬川によって開削される台地末端部分から、市之瀬川によって形成される扇状地にかけての傾斜地に位置する。

本試掘調査は市道櫛形 4 号線建設に伴うもので、延長 300 m にも及び、試掘調査の対象としたのは道路が新設される市之瀬川以東の範囲で、この付近は標高約 307 m を測り、東端部は既設の市道櫛形 4 号線に繋がる標高 295 m 付近となる。既設部分は川上道下遺跡として知られ、その南には櫛形地区拠点工業団地があり、円錐形土偶など国指定重要文化財で知られる鉄物師屋遺跡の発掘調査が行われた地点である。広範囲にわたるため、試掘調査は工事工程に合わせて年度ごとに実施することとなり、初年度となる平成 17 年度は東半分を、翌 18 年度は西半分を、19 年度には既設農道にあたる範囲で実施した。平成 21 年度には最も標高の高い西端の地点で試掘調査を行い、合計 28 箇所の試掘トレンチを設定した。なお、各トレンチは重機による表土の掘削後、人力により精査、遺構確認を行った。

検出された遺構・遺物

傾斜地形においては表土は薄く耕作土の直下で遺構確認面がすでに削平された礫屑が検出されることが多く、標高を減ずるに従って遺物の出土量も少なく、また遺構も検出されず、川上道下遺跡、鉄物師屋遺跡ともに調査区西端部で遺構の分布が薄まっている状況と一致している。台地縁辺部に近づき標高が増すに従って土壤の堆積状況は安定し、遺物も検出される。

遺構は第 7、第 22 トレンチで薄い溝状の窪みを検出したがいずれも自然流路もしくは倒木等とみられる。良好な状態で遺構が検出されたのは平成 21 年度に実施した第 27、第 28 トレンチのみで、第 27 トレンチで遺構が検出されたため、改めて第 28 トレンチを設定しなおし、遺構の確認及び同時に記録保存を実施した。

遺構

遺構は南北に縱走する溝状遺構 1 条と、土坑 1 基が検出された。

1 号溝状遺構

幅 2.6 m、深さ 1.2 m を測り、東に傾斜する地形からか溝の東壁は低く、西壁は段を有して立ち上がる。遺物は非常に少なく、土器片も細片のみで、この溝の時期を示すものは検出されなかった。

遺物

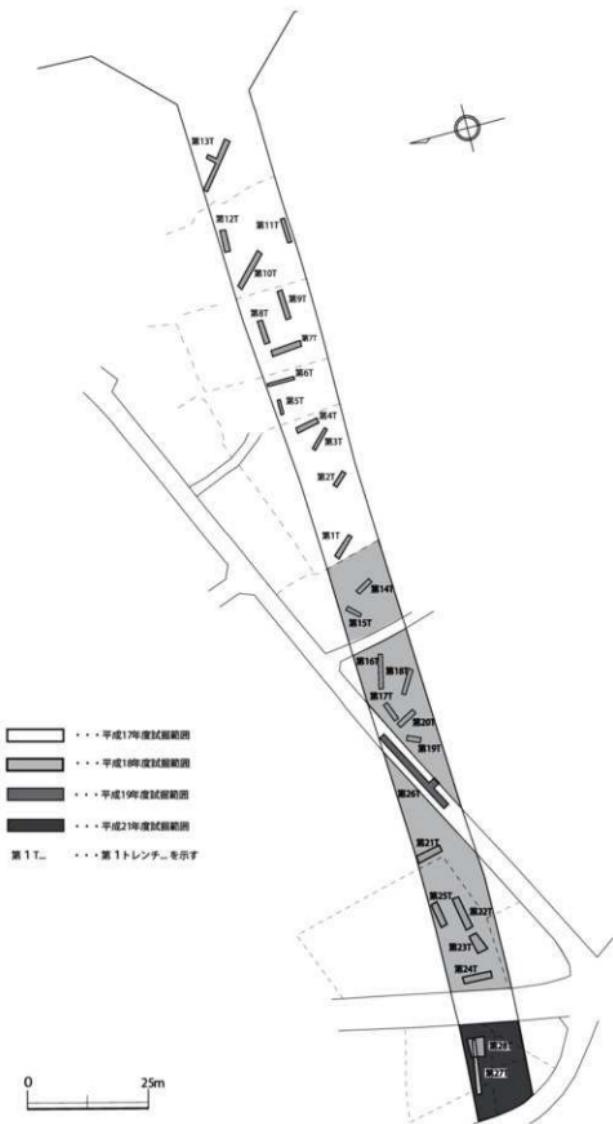
図示できたものはいずれも溝に伴う遺物以外であり、1 は縄文時代中期後葉曾利式期の深鉢型土器の破片で第 28 トレンチで検出されている。

21 年度以外に実施した分として、2 は第 7 トレンチの溝状の窪みから出土した縄文時代早期前半の押型文系の土器片で、胎土に雲母や白色粒などの粗粒砂が多く含み、粗大な楕円押型文が施されている。

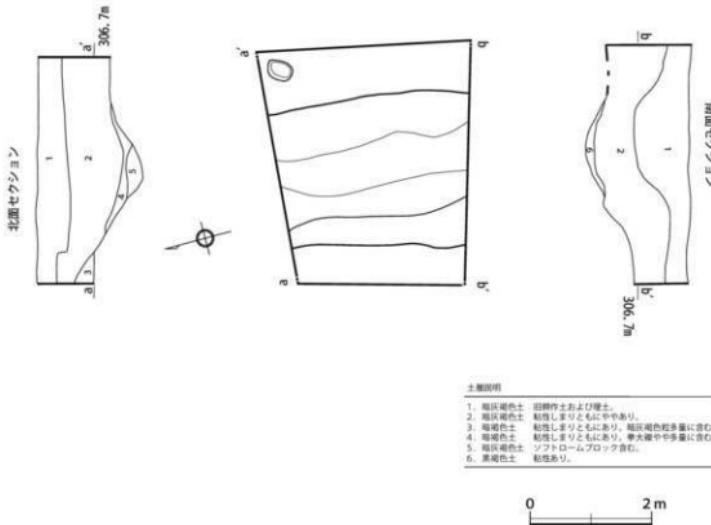
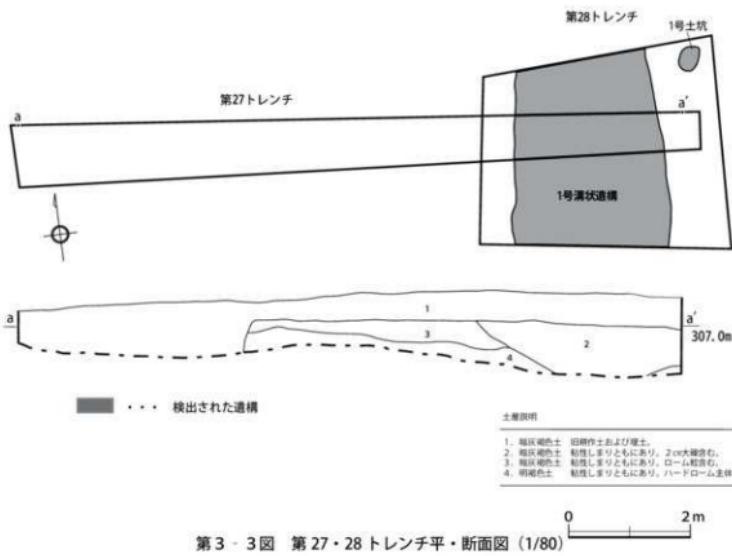
3 は第 21 トレンチで検出された凹石で、片面中央に凹がみとめられるが、その周囲で使用痕跡とみられる剥離が複数みとめられる。

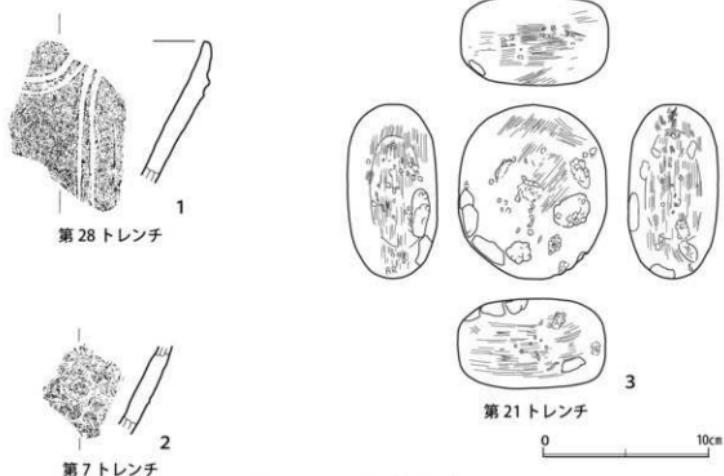


第 3-1 図 調査位置図 (1/5,000)



第3-2図 横道D遺跡トレンチ配置図 (1/1,000)





第3 - 5図 出土遺物 (1/3)



平成 18 年度試掘調査風景



第 21 トレンチ石器出土状況



第 28 トレンチ全景 (西より)



1号溝状造構完掘状況 (北より)

4. 吉田中畠C遺跡

調査地 吉田 271-2 他

調査原因 宅地造成（分譲住宅）

調査期間 平成 22 年 3 月 17 日

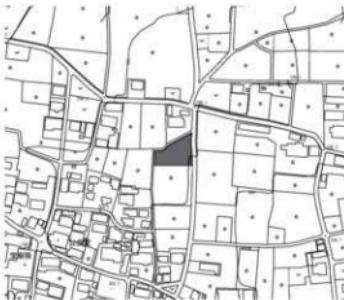
対象／調査面積 995.29 m² / 19.26 m²

調査概要

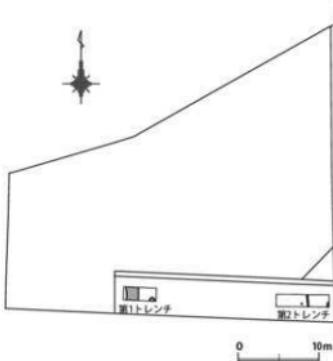
調査区が立地する吉田中畠 C 遺跡は、御勅使川扇状地南東部の扇端部に位置している。この地域は、扇状地扇端部にそって弧状に遺跡が分布しており、南アルプス市内でもとりわけ遺跡が濃密に分布する地域の一つである。主な遺跡を挙げると、西へ約 480 m の地点には弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡である十五所遺跡、南南西へ約 430 m の地点には弥生時代後期から古墳時代前期および平安時代の集落跡である村前東 A 遺跡、南東へ 920 m の地点には古墳時代前期から平安時代を中心とした集落跡である寺部村附第 6 遺跡などが位置している。

調査の結果、第 1 トレンチから南北に伸びる溝状遺構 1 条と土坑 1 基、第 2 トレンチから南北に伸びる溝状遺構を 1 条と土坑 1 基を発見した。遺構確認面は地表下約 0.9 ~ 1.1 m である。遺物は土師器の破片を数点検出した。全ての遺構の覆土はシルト質の暗褐色土である。

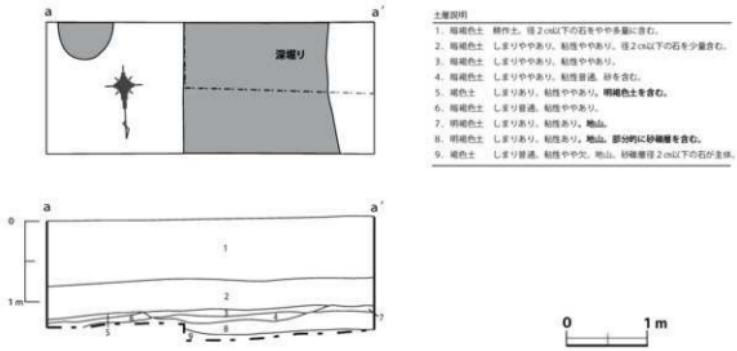
宅地造成計画での最大掘削深度は現地表から約 40cm であり、遺構を検出した確認面との間に 30cm 以上の保護層が確保できる。そのため、教育委員会と工事主体者とで協議し、工事に際しては遺構の現地保存を行うことで合意した。



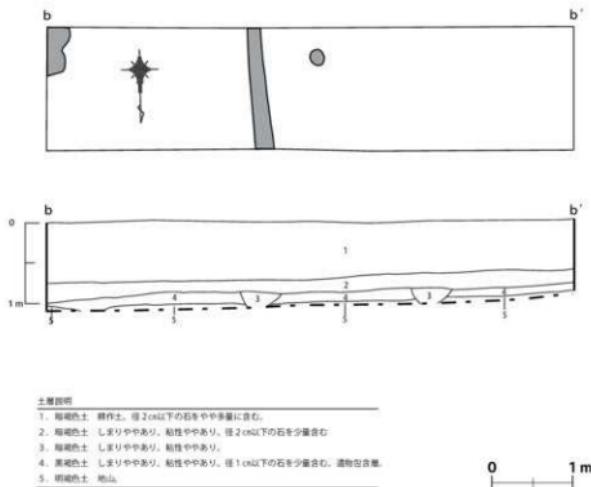
第 4-1 図 調査地位置図 (1/5,000)



第 4-2 図 吉田中畠 C 遺跡トレンチ配置図
(1/600)



第4・3図 第1トレーニング平・断面図 (1/60)



第4・4図 第2トレーニング平・断面図 (1/60)



第1トレンチ全景（東から）



第1トレンチ溝状遺構（南西から）



第1トレンチ土坑（北から）



第2トレンチ全景（西から）



第2トレンチ溝状遺構



第2トレンチ調査風景

5. 曾根遺跡

調査地 上宮地 777-2

調査原因 市道下市之瀬上宮地線

調査期間 平成 22 年 3 月 26、27、29 ~ 31 日

対象／調査面積 798 m² / 27.5 m²

調査概要

調査区は市之瀬台地線辺部、河岸段丘状を呈する台地末端部分から、深沢川によって形成された扇状地にかけての傾斜地に位置する。

本試掘調査は市道下市之瀬上宮地線建設に伴うもので、延長 550 m に及ぶ。当初平成 19 年度より 2 カ年に

わたり合計 39 箇所の試掘溝を設定し順次調査を実施した。そのデータをもとに平成 20 年度、21 年度と本調査を実施したが、その結果を受け、平成 22 年 3 月に再度確認調査を実施することとなった。

計画範囲北側は字名を久保といい比較的標高が高いが安定した地盤は確認できなかった。しかし上宮地 21 号承兼道と交差するあたりから南斜面地の下部に近い範囲では遺構確認面までの掘削深度も浅く、削平されているものの遺構遺物共に多く検出された。計画範囲南側には深沢川が東流し、深沢川が運びこんだ土砂により扇状地形を造り、遺構確認面とみられる面までは地表面下 3 m 以上の掘削深度を有し、遺構を確認することはできなかった。

農地侵食防止事業に伴い昭和 58 年度には本調査が実施され、約 400 m² の調査で縄文時代早期から後期に至る大量の土器片と弥生時代後期末から古墳出現期の竪穴建物跡 4 軒が検出されている。

今回の計画による本調査は約 4500 m²、平成 20 年 12 月 ~ 21 年 3 月、平成 22 年 1 月 ~ 3 月に実施し、旧石器 1 点、縄文時代中期の六角形建物跡を含めた竪穴建物跡 16 軒、古墳出現期の竪穴建物跡 19 軒、遺物では旧石器時代のナイフ形石器をはじめ縄文時代早期の押型文から古墳出現期に至る土器片が大量に出土している。

調査対象範囲の南限では地表面から遺構確認面まで 2.3 m を測り、また台地上部より流れ出る流路によって砂礫層が厚く堆積していたため試掘時点では本調査対象外としたが、本調査により砂礫層の下に遺構が続くことが判明した。堆積内容が砂礫主体であり、さらに南へ続くに従って層厚が増すこと等を考慮し、事業課との協議により遺構は現地保存されることが確認され、遺構の遺存状況を把握することを目的とした試掘調査（第 40 トレンチ）を再度実施することとした。

今回の試掘調査では河川付近の厚い砂礫層の下に関して遺構を把握することはできなかった。周辺地域においても井戸の掘削などにおいて土器出土の証言もあり、深い箇所からの遺物出土も想定されていたが、現実問題として、道路建設の円滑な調整のために事業計画段階の耕作している時点での試掘調査にはその規模に限界がある。砂礫を主体とする堆積地域において 3 m を超す試掘調査を行うにはそれ相当の開口部の面積が必要となり、耕作の隙間を縫っての調査では事实上不可能と言わざるを得なく、恒久的建造物に対する取り扱いや調査前の調整対応について課題が浮き彫りにされたといえる。

トレンチごとの概要

第 1 T ~ 第 2 T 遺構なし。GL - 0.6 m ~ 1.1 m で遺構確認面に比定される比較的安定した暗黄褐色土層が検出されるものの遺構は検出されなかった。

第 3 T ~ 第 7 T 遺構なし。GL - 0.8 ~ 1.0 m で遺構確認面比定層とみられ、またローム層の二次堆積



第 5-1 図 調査地位置図 (1/10,000)

とみられる暗黄褐色土層が層厚約 0.5 ~ 0.6 m でみられる。第 4T ではその上面で縄文土器の破片が出土した。明確な遺構は検出されなかった。

第 8T、第 9T 遺構・遺物あり。GL - 0.6 m で遺構確認面となる。竪穴建物跡、土坑などが検出された。

第 10T、第 11T 遺構なし。段差の下に位置し、GL - 0.3 m ~ 0.5 m で遺構確認面となる。

第 12T ~ 第 14T 遺構なし。GL - 0.8 m ~ 1.1 m で遺構確認面となる暗黄褐色土層となるが、土層の断面確認ではその上位にある褐色土層中に遺構の存在が確認できる。土坑、溝状遺構が検出された。

第 15T 遺構なし。GL - 0.35 m ~ 0.55 m で遺構確認面となる。埋没谷の様相が確認された。

第 16T ~ 第 20T 遺構・遺物あり。GL - 0.2 m ~ 0.3 m で遺構確認面となる。表土の直下ですでに遺構確認面が削平されている状態で、竪穴建物跡、土坑などが検出された。第 18T では貼床が 2 段に検出されたが、本調査により、古墳出現期の全ての建物跡で建替えがされていることが判明している。

第 21T ~ 第 24T 遺構・遺物あり。GL - 0.5 m ~ 0.6 m で遺物を包含する層あるいは遺構確認面を検出した。第 21T では建物跡の床面と壁の立ち上がりが確認され、また、第 22T、23T に建物跡や遺物が集中している。第 24T では南側半分で砂礫層主体の様相を示し、旧流路跡とみられた。

第 25T ~ 第 32T 遺構なし。GL - 1.8 m ~ 2.5 m まで掘削し、遺構確認面は検出されず、砂礫層を主体とした流路内を想定させる様相だった。

第 33T ~ 第 35T 遺構なし。GL - 1.4 m ~ 1.6 m まで掘削し、遺構確認面は検出されなかった。

第 36T ~ 第 39T 遺構なし。GL - 0.8 m ~ 1.2 m で遺構確認面比定層となる。比較的安定したシルト層が検出されるものの遺構は検出されなかった。

第 40T 遺構・遺物あり。本調査終了後に遺構の遺存状況を把握すべく追加して実施した。なお、遺構は掘削せず遺構確認のみとした。GL - 2.3 m ~ 3.2 m で遺構確認面となる。本調査最南端で確認された 36 号竪穴建物跡は継続し、その更に南にも流路跡とみられる砂礫層の下に建物跡とみられる遺構が続いていたが、さらに調査区を広げることは確認面までの深度がさらに増し、安全管理上不可能と判断した。事業課との協議により現地保存されることが確認されたため、本統計画に伴う埋蔵文化財の調査はすべて終了した。よって、この遺跡の南限は確認できず、深沢川によって形成された扇状地形の下には遺構確認面がほぼフラットのまま続いているものとみられる。

遺物

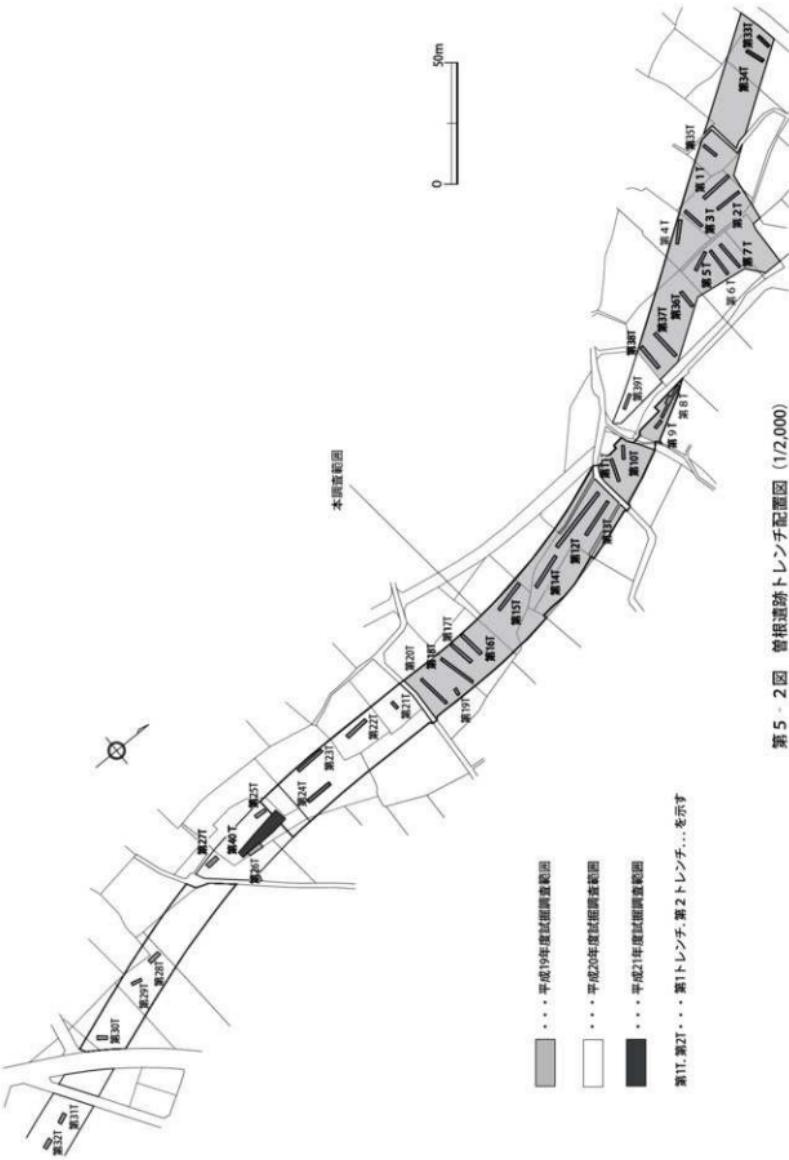
本調査の対象範囲となったトレーナーにおいて遺構確認面および包含層で検出された遺物に関しては極力現地に遺し本調査時に採り上げるようにした。なお、第 40 トレーナーについては遺構確認のみとしたものの検出された遺物は採り上げている。

出土遺物は縄文時代前期から中世までと幅広いが、概ね縄文時代中期曾利式期の土器と古墳出現期の土器片を主体としている。

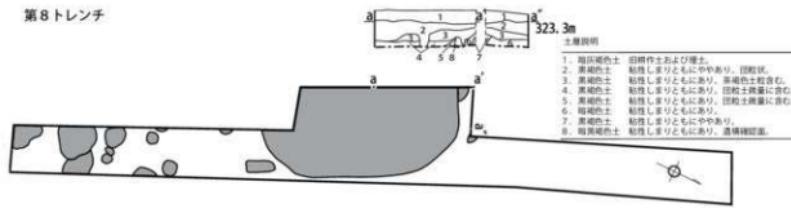
第 23 トレーナー No. 1 ~ 3 は縄文時代中期後葉の曾利 IV 式相当とみられ、住居址埋土上面より出土している。No. 4 は立像土偶の脚部破片で、割れ口には分割塊製作法でみられる接合部を示す小穴がみられる。

第 22 トレーナー No. 1 は中世のかわらけの破片で、本遺跡においての出土量は少なく、また遺構は確認できていないが、周辺に存在する中世の古寺や石塔とは符号する。第 40 トレーナー No. 3 は縄文時代前期の植物纖維を多く含んだ土器で RL の単節縄文を地文とする。No. 6 は石皿の破片で本調査における 36 号竪穴建物の埋土上面で検出された。安山岩製。No. 15 は粘板岩製の打製石斧。

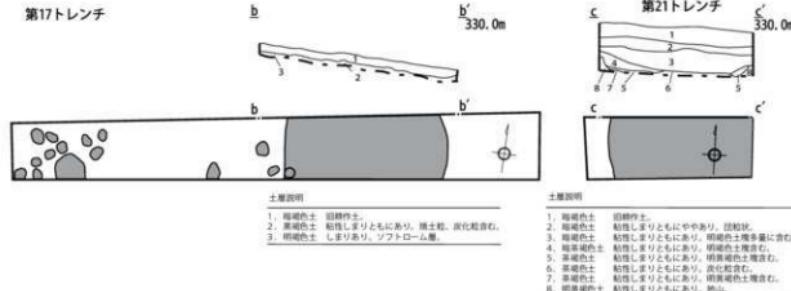
第5-2図 管相道路トレーニング配置図(1/2,000)



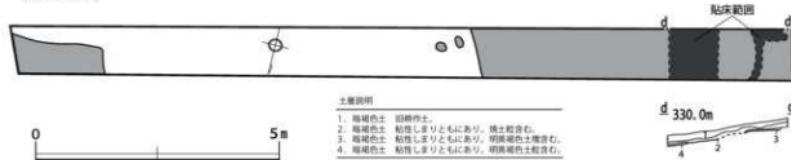
第8トレンチ



第17トレンチ

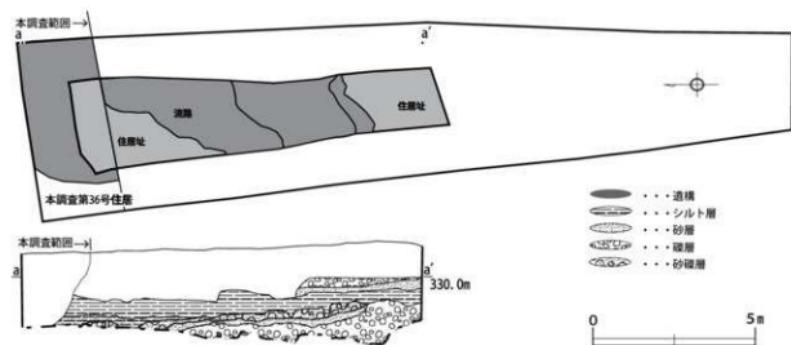


第18トレンチ



第5・3図 第8T、第17T、第18T、第21T平・断面図 (1/100)

第40トレンチ



第5・4図 第40T平・断面図 (1/150)



第5・5図 出土遺物 (1/3、1/6)



第 23 トレンチ遺物出土状況



第 23 トレンチ石器出土状況



第 22 トレンチ全景（北より）



第 40 トレンチ全景（北より）



第 40 トレンチ東壁断面（南西より）



第 40 トレンチ石皿出土状況

報告書抄録

ふりがな	へいせい 21ねんどまいぞうぶんかざいしきつちょうさほうこくしょ
書名	平成 21 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
副書名	各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 26 集
編著者名	斎藤秀樹、田中大輔、阪保太一
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地	〒 400-0492 山梨県南アルプス市駄沢 1212 TEL055-282-7269
発行年月日	2011 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	標高 (m)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(世界測地系)				
百々・上八田遺跡	上八田 53 他	19208	SN-3	35° 39' 27"	138° 28' 40"	331	2009 年 2 月 25, 26 日 3 月 2, 11 日 2009 年 11 月 24 日～12 月 18 日	640.145	工場誘致
野牛島・石橋遺跡	野牛島 2696-1 他	19208	HT-18	35° 40' 8"	138° 28' 39"	329	2009 年 11 月 26 日、 12 月 1, 24 日	43	農道 47 号線
橋道 D 遺跡	下市之瀬 27-1	19208	KG-187	35° 37' 11"	138° 28' 58"	307	2010 年 1 月 6～14 日	16.78	市道 橋形 4 号線
吉田中畑 C 遺跡	吉田 271-2 他	19208	KG-6	35° 36' 56"	138° 26' 54"	288	2010 年 3 月 17 日	19.26	宅地造成(分譲住宅)
曾根遺跡	上宮地 777-2	19208	KG-123	35° 36' 44"	138° 26' 50"	330	2010 年 3 月 26, 27, 29～31 日	27.5	市道 下市之瀬上宮地線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
百々・上八田遺跡	散布地	奈良～中世	住居址、溝状遺構、土坑	土師器	山梨県埋蔵文化財センター調査の 百々遺跡と近接した平安時代の集 落跡。
野牛島・石橋遺跡	散布地	縄文時代後期～弥生時 代中期	溝状遺構	縄文土器、土師器	
橋道 D 遺跡	散布地	縄文～弥生時代	溝状遺構	縄文土器、石器	
吉田中畑 C 遺跡	散布地	奈良～中世	溝状遺構、土坑	土師器	
曾根遺跡	集落地	縄文中期、弥生～古墳 時代	住居址、据立柱建物 跡、溝状遺構、土坑	縄文土器、土偶脚部、石器、 弥生土器、古式土師器	縄文時代中期、古墳出現期を中心 とした複合遺跡。平成 22 年度本調 査報告書公刊。

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第26集
山梨県南アルプス市

平成21年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日 2011年3月31日

発行者 南アルプス市教育委員会
〒 400-0492
山梨県南アルプス市鮎沢1212

TEL 055-282-7269

印刷所 株式会社サンニチ印刷
〒 400-0058
山梨県甲府市宮原町608-1
TEL 055-241-1111
FAX 055-241-1220

山梨県南アルプス市

平成21年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2011.3

南アルプス市教育委員会